

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
予防及び回復促進1							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
鍼灸学科・昼間部	3年	1期	福永 恭子				
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	総合領域			座学	1	10	
科目概要							
<p>リハビリテーション医療ではさまざまな職種が協力して患者の障害を回復へ導き、社会・環境への適応を促進するを目指す。多職種により提供される専門技術は、逆に健康増進や疾病予防、さらにスポーツや宇宙医学にも活用されている。予防及び回復の促進では主にPT、OT、STが担当する専門技術について、概要を学ぶと同時に補装具や車椅子、義肢などについても基本的な構造や利用法などへ知識を広げ、チームアプローチの現場に立った場合に必要とされる教養と臨床実践家として必要な知識を身に付ける。</p>							
目標							
<b>一般目標(GIO)</b> 本講義を学習することで達成されるべき目標	鍼灸師として臨床上必要なリハビリテーションの知識を身に付けるために、治療プログラム、禁忌事項の知識など、リハビリテーションを医学的側面から習得する。						
	<b>到達目標(SBO)</b> 一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)	1. リハビリテーションの基本理念を列挙し、概念を述べられるようにする。 2. リハビリテーションチームの必要性と障害の種類を列挙できる。 3. 障害を評価するために必要な評価方法と測定方法を列挙できる。 4. 日常生活活動の評価と合併症(廃用症候群)の評価の種類と項目を列挙できる。 5. 運動麻痺の評価や高次脳機能評価の種類と項目を列挙できる。 6. 理学療法の意義や方法を説明できる。 7. 作業療法、言語聴覚療法、補装具療法の意義や方法を説明できる。 8. 脳卒中の評価やリハビリテーションを説明できる。					
履修に必要な予備知識や技能							
教科書・参考書							
リハビリテーション医学第4版 東洋療法学校協会編							
受講上の注意							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	100						100
回数	授業内容				教科書	教材・持ち物	
第1回	リハビリテーションの基本理念、障害と生活のとらえ方を学ぶ				p.1～5	教科書プリント	
第2回	リハビリテーションの分野、障害の種類を学ぶ 小テストを行う				p.6～21	教科書プリント	
第3回	心身機能・身体構造の評価方法を学ぶ 小テストを行う				p.22～37	教科書プリント	
第4回	活動の評価方法を学ぶ 小テストを行う				p.38～44	教科書プリント	
第5回	運動の評価方法、高次脳機能の評価方法を学ぶ 小テストを行う				p.45～50	教科書プリント	
第6回	理学療法について学ぶ 小テストを行う				p.51～60	教科書プリント	
第7回	作業療法、言語聴覚療法、補装具療法を学ぶ 小テストを行う				p.61～79	教科書プリント	
第8回	脳卒中について学ぶ 小テストを行う				p.80～97	教科書プリント	
第9回	授業内容を練習問題を用いて総括し、応用知識をつける				p.1～98	教科書プリント	
第10回	定期試験						
実務経験と本講義との関連について							
メールアドレス							
fukunaga-t@nihonisen.ac.jp							